



おののいもこ 小野妹子は、どんな人だったの



けんずいし 遣隋使に2度もなり、かんいじゅうにかい 冠位十二階の第1位まで出世した人だよ。

小野妹子は、多くの^{てんのう}天皇のきさきを出し、^{こうしつ}皇室の親せきだった^{かすがし}春日氏から分かれ、^{おうみのくみしがごおり}近江国滋賀郡小野村（今の滋賀県志賀町）に住んだことから、小野氏を名のった一族の出身です。彼の生まれた年も、死んだ年も、わかりません。

遣隋使に任命された

妹子は^{ちやうてい}朝廷の役人になり、607年に、遣隋使に任命されました。そのときの冠位は、十二階の第5位の^{だいらい}大礼です。隋の都の^{ちやうあん}長安に着いた妹子は、「^{ひい}日出ずる^{ところ}処の天子」で始まる国書（外交文書）を、皇帝の^{ようだい}煬帝にわたしました。翌608年、煬帝が^{はけん}派遣した使節を連れて、帰国しました。

煬帝の国書がぬすまれた

妹子は、帰国するとちゅうで、日本の友好国だった^{くだら}百済に立ち寄りしました。その国で、煬帝から日本の王にあてた国書をぬすまれる事件が起こりました。帰国した妹子は、その罪で、^{るけい}流刑になることが決まりましたが、^{すいこてんのう}推古天皇は、隋の使節たちが聞いては具合が悪いとって、妹子の罪を許しました。この事件は、「日本書紀」に書かれているものですが、本当にぬすまれたのかどうかについては、いろいろな説があります。

ふたたび遣隋使になった

その年に、妹子はふたたび、遣隋使に任命されました。帰国する煬帝の使節や、留学生を連れて隋に行き、^{よくねん}翌年、帰国しました。彼はその後、冠位十二階の第1位の^{だいとく}大徳まで、出世しました。